

平成 30 年度第 3 回（172 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 30 年 10 月 16 日午前 10 時から

場 所：アミュービル4階 アイレック 会議室 1、2

出席者：勅使河原功治、赤川都、本庄佳緒里、浅見良子、有戸英明、石崎勇仁、
奥澤礼子、景山剛治、菊谷多恵、木元祥恭、小寺和幸、渋谷敏夫、
福本徳昭、山崎聖、吉松治任

事務局（市民協働係長、企画課主事）

欠席者：阿部由紀子、沖山由行、小糸清美、根岸静代、村野澄夫

<配布資料>

- 1 平成 30 年度第 3 回（第 172 回）清瀬市まちづくり委員会次第
- 2 「空き家の抜本的対策」についての回答案
- 3 「市内イベント等に地域学生の活用し、活性化、担い手づくりを」【提案】
- 4 清瀬市学生ボランティアについて（資料）
- 5 「ボランティアポイント制度の導入と実施を！」【提案】
- 6 地域ポイント事業・制度の各市の対応内容（資料）
- 7 地域自治体における「地域ポイント制度」の新展開（筑波総研株式会社）（資料）
- 8 きよせ介護サポーター事業実施要綱（資料）
- 9 きよせ介護サポーター事業（資料）
- 10 清瀬市まちづくり委員会運営基本方針の一部を改正する新旧対照表
- 11 清瀬市まちづくり委員会運営基本方針
- 12 清瀬市まちづくり委員会運営基本方針（平成 29 年 8 月 28 日改正版）

1 開会

2 前回の確認

委員長：前回の確認に移る。議事要旨について意見等はあるか。問題が無いよ

うであれば議事要旨を承認したい。

<委員 了承>

3 提案の審議

委員長：「空き家について」の回答案を審議する。

<委員長が「空き家について」の回答案を読む>

委員長：回答案について意見はあるか。

委員：回答案はすでに提案者に渡してあるのか。

委員長：まだ、渡していないので、確認してもらいたい。

委員：回答内容はこれで良いと思う。

委員：文章の最後にどこが発信している文章かを明記しなくてよいのか。

事務局：回答には「まちづくり委員会からの回答」と分かるように記載する。

委員長：回答内容はこちらで良いか。

<委員 了承>

委員長：新しい審議にうつる。

<副委員長より「市内イベント等に地域学生を活用し、活性化、担い手づくりを」「ボランティアポイント制度の導入と実施を！」を読む>

委員長：この2つの提案に関して意見等あるか。

事務局：他市の資料に記載されている事例内容も参考としてほしい。

委員長：「ボランティアポイント制度の導入と実施を！」の提案に「有償ボランティア」とあるが15歳以下の子供が有償で働かせることができないので、ここは無償で考えたほうが良いと思う。

委員：今回の2つの案は1つとして考えず、1つ1つ別の提案として検討したほうが良い。

委員：市内のボランティアに依頼したい時はどこに言えばいいかわからない。

事務局：きよせボランティア・市民活動センターがボランティア団体の管理を行っている。

委員：まずは、市民の関心をボランティア活動に向けてからポイント制度をやれば良いと思う。

委員：清瀬市社会福祉協議会を通じて、夏の体験ボランティアを募集した。小中学生だけで、30人くらい来た。参加する人には何かしらのモチベーションがあれば来てくれる。御殿山での草刈などのボランティアの際は野菜の提供である。参加者に、このようなモチベーションがあるといい。

委員：提案について、「市内イベント等に地域学生を活用し、活性化、担い手づくりを」と「ボランティアポイント制度の導入と実施を！」は全く違う内容なので、まず、どちらの内容を話し合うか決めてほしい。

委員：内容としては重複する部分があると思うが、提案者は別々と思うので、

別の内容として審議する必要があると思う。

- 委員：大学生はボランティアを行うことで単位を取得できているのか。
- 委員：ウィズアイが受け入れている学生は実習となり単位になると聞いている。
- 委員：実習のように単位になるボランティアとならないボランティアがあると思う。
- 委員：「市内イベント等に地域学生を活用し、活性化、担い手づくりを」と「ボランティアポイント制度の導入と実施を！」の提案はボランティアという括りを分けて考えるべきと思う。
- 委員：私はこの2つの提案の共通するキーワードはボランティアだとは思っている。
- 委員：そうではなく「市内イベント等に地域学生を活用し、活性化、担い手づくりを」の提案はイベントをいかに若い人たちに手伝っていただくかであって、ボランティアが重要なわけではなく若い力の活用と考える。
- 委員：「ボランティアポイント制度の導入と実施を！」の提案にある有償ボランティアについては学生が対象にならないのであれば、共通して話せないのではないか。
- 委員：「市内イベント等に地域学生を活用し、活性化、担い手づくりを」の提案について話す。まちづくり委員会としては、どのようにしたらイベントが盛り上がるかを決めるわけではない。
- 委員長：この2つの提案は別物として分けて考える。まず、「市内イベント等に地域学生を活用し、活性化、担い手づくりを」の提案の審議をする。
- 委員：委員からはこの提案はイベントを盛り上げるための提案ではないと発言があったが、いかに若い人を巻き込めるかが論点だと思う。そのためには、ボランティアという単語は必要になってくると思う。子供を巻き込むには親世代を巻き込む必要があると思う。
- 委員：各イベントを見ていると、運営は大人が決めている。若い人たちに進めていただき、責任をもってもらい、意見を出してもらい、決めることで若い人も参加しやすいものになると思う。
- 委員：提案者の方が今後の担い手を作りたいと言っている内容に、市民まつり、市民マラソン、選挙をあげている。市民マラソンに焦点をあてて話す、学校に協力してもらうのはどうか。
- 委員：中学生は授業でいっぱい時間がない。ただ、各学校の生徒会が集まる機会がある。そこに、こちらから出向いて協力の説明することは可能だと思う。
- 委員：学校は忙しく協力的ではないので、難しいと思った。

委員：それでは、選挙に関して協力してもらうのはどうか。それなら、学校や教育委員会も協力しやすいと思う。

委員：先ほどから学生発言があるが、学生はどのあたりを定義しているのか。

委員：今後の担い手となるのであれば、清瀬在住の高校生をさしているのではないか。

委員：社会を明るくする運動と言うのがあり、市の小中学生に声かけて広報の配布の手伝いをしてもらっているので、学校の理解はあると思う。

委員：各イベントは主体が違うので、どのイベントと限定するというわけではなく、一律で考えてもらえればいいと思う。

委員：もっと若い人が市のイベントに参加してもらいたいということであるのだと思う。

委員：成人式は現在、有志が集まって行っている。そのように、教育委員会に有志が集まっていただくように声かけてもらうように提言するのはどうか。

委員：教育委員会に働きかけて学生の活用という提言に持っていけるのではないか。

委員長：提案に関する審議はここまでとし、まちづくり委員会の運営基本方針について話す。

<委員長・副委員長より、昨年検討したまちづくり委員会運営基本方針の変更点について説明>

委員長：こちらの基本方針の内容で今年度のまちづくり委員会を進めるということによろしいか。

<委員 了承>

次回の開催は

11月20日（火）10時～ 男女共同参画センター会議室1，2